

2年 道徳科学習指導案

9月 9日(火) 5限 真庭市立落合小学校 2年教室

指導者 清友啓介

1 主題 友だちと なかよく

2 主題設定の理由

(1) 内容項目について

本時で取り上げる内容項目は、B(10)友情、信頼「友達と仲よくし助け合うこと」である。

この内容項目における友情とは、平等・対等な関係であり、ありのままの自分を見せ、互いを肯定し合う人間関係の間に生まれる情愛である。また信頼とは、人間関係を結びつける絆であり、ともによりよく生きるために相手のことをかけがえのない存在として大切に、信じて任せることである。友達とは家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、友達関係は共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに影響し合って構築されるものである。

第2学年の指導に当たっては、友達の気持ちを考えることに重きをおき、友達の気持ちを考えて仲良くできたよさに目を向けることで道徳的価値の理解を深めたい。

(2) 児童の実態について

(3) 教材について

本時に使用する教材は、「およげないりすさん」(日本文教出版「小学どうとく 生きる力2」)である。

本教材は、泳げないことを理由にりすだけを残して島に行ってしまった白鳥・あひる・かめの3匹が楽しむことができず、次の日りすに謝って全員で島に向かうという内容である。この教材は、登場人物の気持ちを児童の経験と重ねながら語り合いやすく、主題に迫ることに適した教材であるといえる。

指導に当たっては、登場人物の気持ちや思いに自分を重ねて考えやすくするために、役割演技を取り入れる。りすを1匹残して島に向かった3匹がちっとも楽しくなかった場面では、どうして楽しくなかったのかをかめたち3匹の視点から友達であるりすの気持ちを想像することで、道徳的価値に迫ることが期待できる。また、かめの背中に乗ってみんなで島に向かう場面では、友達のことを考えて行動できた時のよさについて、実感を伴って考えられるようにしたい。役割演技の中でのやり取りや切り返しの発問などを通して、多面的・多角的に考えられるように促したい。そして、登場人物の思いを役になりきって演じたり、演者の姿を見たりすることで、友達の気持ちを考えて仲よくする大切さや助け合って生活していくよさに気付けるようにしたいと考えている。

3 ねらい

友達と仲よくするにはどんなことが大切なのか考える中で、友達の気持ちを考えて行動することのよさに気づき、友達と仲よく助け合っていこうとする心情を養う。

4 展開

学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
<p>1 アンケートをもとに友達との関係について話し合い、本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○アンケートの結果を見て、どんなことがわかりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達がいてくれてよかったと思った人が多い。 ・友達と仲良くしたいのに、できなかった人もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を交流し、仲良くしたいのにできないことがある点からめあてにつなげるようにする。
<p>友だちとなかよくするために大せつなことってなんだろう。</p>		
<p>2 教材「およげないりすさん」を読んで、話し合う。</p>	<p>○このお話を聞いて、「よかったな」と思ったり、「よくないな」と思ったりしたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めはりすさんを仲間外れにしてよくなかったけど、最後はみんなで仲良くしてよかった。 ・「泳げないからダメ」はよくないと思う。 ・最後はみんなで仲良く島に行けてよかった。 <p>◎りすさんを残して、島に着いたかめたち3匹はどんなことを思っているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りすさんは泳げないから仕方ないよね。 ・3人で遊んでも楽しいよ。でも気になるな。 ・りすさんをひとりぼっちにしまった。 ・きっとりすさんは寂しかったし悲しかったと思う。 ・僕たちはひどいことを言ってしまったな。 <p>○りすさんを背中に乗せて、島に向かっている時、みんなははどんなお話をしているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨日は仲間外れにしてごめんね。 ・りすさんもニコニコしてくれてうれしいな。 ・友達がひとりぼっちで寂しいと楽しくないけど、みんなと一緒に遊べると楽しいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・範読直後の子どもの話したい気持ちを大切にするために、感想を交流し、子どもの発言をきっかけに、考える場面を焦点化する。 ・かめたち3匹が友達のりすさんのことを想像する際の心情に迫るために、役割演技を取り入れる。 ・児童の発言をもとに、より深く考えられるようにするために、教師も役割演技に加わり、どうして泳げないのにりすさんがいいのか、人数をたくさんにすると楽しいのなら、泳げる友達を誘うといいのではないかなど、切り返しの発問をする。
<p>3 自分たちの生活を振り返り、友達の気持ちを考えることについて話し合う。</p>	<p>○このお話のように、友達の気持ちを考えて仲よくできたなと思ったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で寂しい友達がいないように、「一緒に遊ぼう。」と誘って楽しく遊ぶことができた。 <p><勉強で困っている友達のイラスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っているから、どこがわからないのか尋ねた。 ・自分がわかるころだったから、ヒントを教えてあげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の気持ちを考えて行動することができた経験を思い起こせるようにする。ただし、難しい児童が多い場合は、具体的な場面をイラストで提示し、その時の気持ちを思い起こして考えられるように促す。
<p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>○今日の学習で大切だと思ったことやこれからの生活で生かしたいと思ったことをワークシートにまとめましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が納得した考えやこれから生かしたいことを整理するために、ワークシートにまとめるように促す。
<p>評価の視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・役割演技などを通して、多様な考えを出し合い、友達の気持ちを考えて行動することの大切さに気付くことができたか。 ・自分との関わりで考え、これまでの自分を振り返り、友達に対して仲よく助け合おうとする意欲を高めることができたか。 	